

熊野地域観光名所循環バス実証運行事業

(熊野地域観光名所循環バス実証運行プラットフォーム)

事業の基礎情報

実施主体	熊野御坊南海バス株式会社
事業実施地域	和歌山県新宮市/和歌山県新宮市熊野川町/和歌山県田辺市本宮町/和歌山県東牟婁郡那智勝浦町
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり
共創パートナー	新宮市・新宮市観光協会/田辺市本宮町・熊野本宮観光協会/那智勝浦町・那智勝浦観光機構/熊野川町ふれあい公社
運行形態	①貸切バス（貸切バスを活用した観光名所循環バス実証運行） ②一般貸切旅客自動車運送事業
運行主体	熊野御坊南海バス株式会社

現状・課題

(地域交通の現状・課題に関する分析)

◆地域交通の現状

実施主体が運行している路線バス（川丈線・新勝線・那智山線）の観光シーズン中の特定時間帯運行において、ダイヤの遅れが頻発（1路線で最大30～40分の遅れが発生することもある）。

地域利用客と観光客の利用が重なることによる収容人員オーバーによる一部旅客の積み残しも発生。観光名所最寄りのバス停では、国内外観光客による長蛇の列が発生するケースもある。

運行遅延の主な原因：外国人観光客の降車時の精算（小銭の識別に時間を要するケースが多い）に時間を要する事が主な原因と分析。また運転手が、外国人観光客の精算を手伝うことになる事で、ダイヤの遅れを助長すると共に、安全運転の妨げにもなり、地域利用者（特に通勤・通学）に多大な迷惑をかけるとともに公共交通機関の利便性を損ねている。

◆地域交通の課題

地域住民の足である路線バスの安全運行並びに定時運行を確保し、地域公共交通の利便性向上と活性化を図る必要がある。

2025年度の大阪関西万博の開催に伴い、外国人観光客の増加が予想される中、オーバーツーリズム防止対策を講じる必要がある。

地域住民の移動手段の快適で安全な運行確保とともに、より多くの観光客にもご利用いただける地域公共交通システムの構築を通じて、地域の2次交通不足の解消を図る必要がある。

地域公共交通計画への位置づけ
(位置づけ予定を含む)

有：和歌山県地域公共交通計画 令和6年度～令和10年度 基本方針2-6 観光や地域活性化施策との連携

運輸局・運輸支局への事前相談

近畿運輸局 和歌山運輸支局

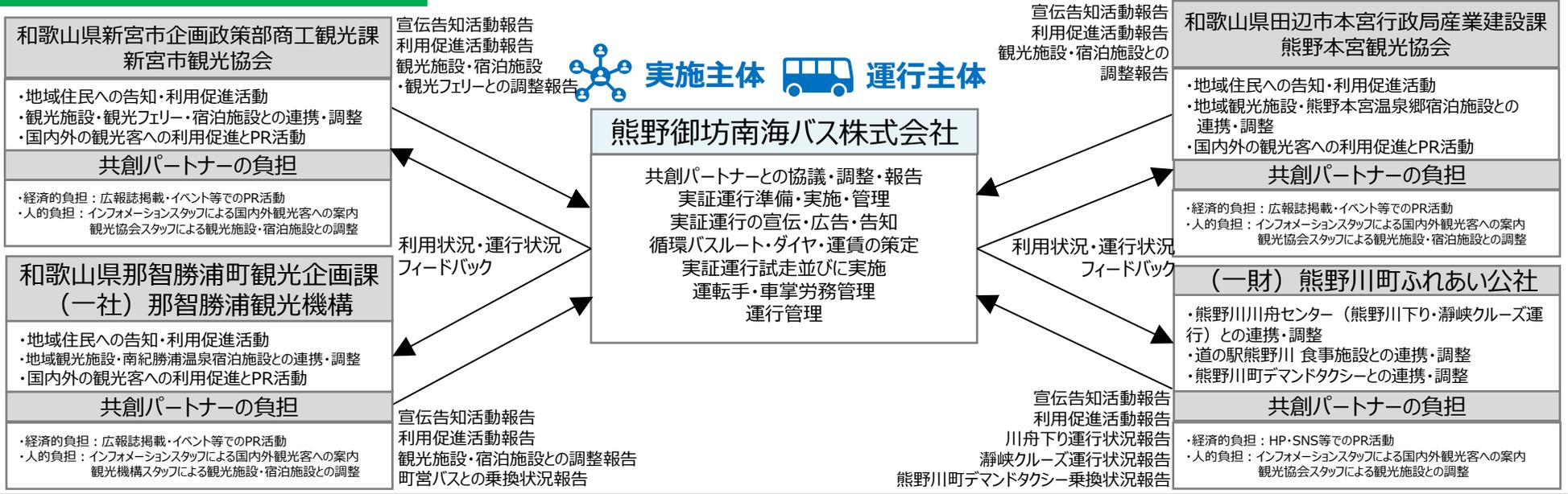
令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

熊野地域観光名所循環バス実証運行事業

(熊野地域観光名所循環バス実証運行プラットフォーム)

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

国内外観光客の利用をメインとした熊野地域観光名所巡り循環バスの実証運行を実施する。地域住民の利用バスと国内外観光客利用バスを分離することで地域の課題解決に取り組む。国内外観光客の利用頻度の高いバス停・他の公共交通との接続バス停・観光舟や観光名所最寄りバス停・宿泊施設最寄りバス停をダイレクトに繋ぎ循環運行することで観光客の移動利便性向上（2次交通不足解消）を図り、同時に地域住民の安全で安定的な公共交通移動を確保し、地域の観光・まちづくりに貢献し地域経済活性化に取り組む。

(地域の関係者との連携・協働)

- ・地方公共団体並びに地域観光協会と共創することで、効率的かつ効果的に地域の観光施設・宿泊施設と連携・情報共有を図ることが出来る。
- ・地域住民並びに国内外観光客への告知・案内・利用促進を効率的かつ効果的に行うことが出来る。
- ・地域の課題解決に向けて地域一体となった取組を実現する事が出来る。
- ・実証運行期間中、車掌スタッフ1名が循環バスに同乗し、利用客データ収集を行い、次年度以降の実施に向けたデータ分析に活用するとともに、
(人数・国籍・利用区間・利用者の意見収集等) 共創パートナーへの分析結果の共有を図る。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

・熊野地域観光名所を巡る循環バスを運行することで、国内外観光客の移動利便性を向上し、JR列車や南紀白浜空港リムジンバス等との接続を図ることでよりスムーズで利便性のある地域公共交通ネットワーク実現を図る。観光客利用と地域住民利用の分離を図ることで、既存路線バスの安全で安定的な定時運行を実現すると共に、オーバーツーリズム防止対策効果を図る。

熊野地域観光名所循環バス実証運行事業

(熊野地域観光名所循環バス実証運行プラットフォーム)

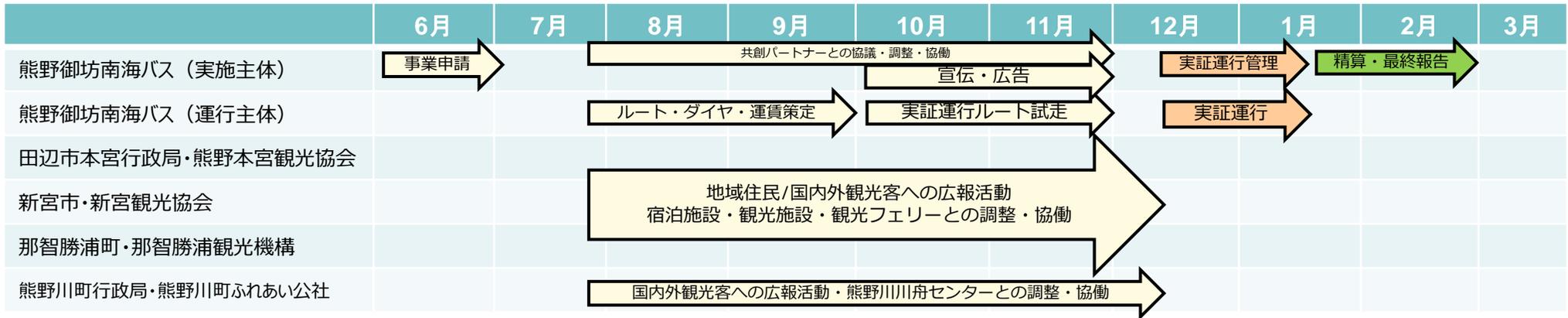
事業実施手順・スケジュール

- ◆実施主体：熊野御坊南海バス株式会社
- ◆実証運行期間：2024年12月16日（月）～2025年1月14日（火）30日間実施 ※10月～11月中に実証運行ルートの試走運行を実施予定（1日）
- ◆乗車運賃売上目標：1,000（平均）×10名×6便×30日＝1,800,000円
- ◆循環バス実証運行ルート&ダイヤ（予定）

		紀伊勝浦駅	→	那智駅	→	大門坂	→	那智の滝前	→	那智山	→	那智の滝前	→	大門坂	→	那智駅	→	新宮駅	→	熊野速玉大社	→	道の駅熊野川	→	神丸	→	川湯温泉	→	渡瀬温泉	→	湯の峰温泉	→	熊野本宮大社		
紀伊勝浦駅 ↓ 本宮大社前	1便	7:20	→	7:30	→	7:40	→	7:50	→	7:55	→	8:00	→	8:10	→	8:20	→	8:50	→	8:55	→	9:20	→	9:25	→	9:45	→	9:50	→	9:55	→	10:05		
	2便	11:15	→	11:25	→	11:35	→	11:45	→	11:50	→	11:55	→	12:05	→	12:15	→	12:45	→	12:50	→	13:15	→	13:20	→	13:40	→	13:45	→	13:50	→	14:00		
	3便	14:20	→	14:30	→	14:40	→	14:50	→	14:55	→	15:00	→	15:10	→	15:20	→	15:50	→	15:55	→	16:20	→	16:25	→	16:45	→	16:50	→	16:55	→	17:05		
		紀伊勝浦駅	←	那智駅	←	大門坂	←	那智の滝前	←	那智山	←	那智の滝前	←	大門坂	←	那智駅	←	新宮駅	←	熊野速玉大社	←	道の駅熊野川	←	神丸	←	川湯温泉	←	渡瀬温泉	←	湯の峰温泉	←	熊野本宮大社		
		10:45	←	10:35	←	10:25	←	10:15	←	10:10	←	10:05	←	9:55	←	9:45	←	9:15	←	9:10	←	8:45	←	8:40	←	8:20	←	8:15	←	8:10	←	8:00	1便	本宮大社前 ↓ 紀伊勝浦駅
		13:20	←	13:10	←	13:00	←	12:50	←	12:45	←	12:40	←	12:30	←	12:20	←	11:50	←	11:45	←	11:20	←	11:15	←	10:55	←	10:50	←	10:45	←	10:35	2便	
		17:45	←	17:35	←	17:25	←	17:15	←	17:10	←	17:05	←	16:55	←	16:45	←	16:15	←	16:10	←	15:45	←	15:40	←	15:20	←	15:15	←	15:10	←	15:00	3便	

◆他公共交通接続・観光名所最寄りバス停

・【紀伊勝浦駅】勝浦温泉宿泊施設送迎バス/町営バス/観光施設/他の観光名所/JR西日本（大阪方面）/観光列車 WEST EXPRESS 銀河/JR東海（名古屋方面）/路線バス/空港リムジンバス ・【大門坂】熊野古道大門坂、観光施設 ・【那智の滝前】那智の滝/飛瀧神社/観光施設 ・【那智山】熊野那智大社/青岸渡寺/宿泊施設/観光施設 ・【那智駅】JR西日本（大阪方面）/JR東海（名古屋方面） ・【新宮駅】新宮市内宿泊施設/観光施設/他の観光名所/JR西日本（大阪方面）/JR東海（名古屋方面） ・【熊野速玉大社前】：熊野速玉大社 ・【道の駅熊野川】：熊野川川下り/瀬峡川舟クルーズ/観光施設/熊野川町デマンドタクシー ・【神丸】路線バス/熊野古道（大雲取越え・小雲取越え） ・【熊野本宮温泉郷（川湯温泉、渡瀬温泉、湯の峰温泉）】宿泊施設/観光施設 ・【熊野本宮大社前】熊野本宮大社/熊野古道中辺路/観光施設



熊野地域観光名所循環バス実証運行事業

(熊野地域観光名所循環バス実証運行プラットフォーム)

取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

- ・国内外観光客利用と地域住民利用の交通手段を分離することにより、地域公共交通の定時性・安全性を確保し、地域住民の利便性・満足度向上に寄与する。
- ・循環バスと既存公共交通のスムーズな接続により、地域公共交通ネットワーク向上に寄与する。
- ・既存の実施主体路線バス乗り放題チケットやJR東海との共通乗車での利用を可能にすることで、既存地域公共交通との経済効果に寄与する。
- ・国内外観光客への乗車券販売による地域交通乗車券売上増加（乗車券1000円×10名×6便/日×30日 = 1,800,000円）

(地域全体に及ぶと想定される効果)

- ・観光名所循環バスの運行により、地域の観光消費額向上、観光客のリピート率の向上並びに滞在日数（宿泊数）の向上に寄与する。
- ・国内外観光客のニーズに合わせたルート・ダイヤの循環バス実施により、2次交通不足解消・移動利便性の向上・観光地の顧客満足度向上に寄与し、国内外からの誘客推進に寄与する。
- ・従来の乗り継ぎによる移動時間ロスを解消し、観光名所での滞在時間延長、他の公共交通機関へのスムーズな乗り継ぎや観光アクティビティ利用の利便性を向上することで観光消費額を向上させ、地域経済活性化に寄与する。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	○	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

本事業は、PDCA（計画→実施→検証→見直し）サイクルに基づき、検証・見直しを行い、共創パートナーとの意見交換会の定期開催実施や地域公共交通協議会を通じて、次年度以降の事業化実現に向けて取組む。

・令和7年度：2025年大阪関西万博の開催時期（4/13～10/13）に合わせ（インバウンド観光客需要を見据え）期間限定運行実施に向けて既存路線バスとの運行調整・乗務員確保等の課題解決に取組む。

・令和8年度：観光シーズン期間限定運行の実施に向けて取組む。また、他公共交通機関との共通乗車券での乗車に取組み、地域公共交通ネットワーク拡充を図る。熊野御坊南海バス：ユニーフリー乗車券、JR東海/JR西日本：伊勢・熊野・和歌山エリア周遊きっぷ、南紀熊野古道フリーきっぷ、田辺市熊野ツーリズムビューロー：熊野古道バス 等。

◆乗車券収入目標

- ・本年度目標：1,000円×10名×6便×30日 = 1,800千円
- ・令和7年度目標：2,000円×20名×6便×180日 = 43,200千円
- ・令和8年度目標：2,000円×20名×6便×90日 = 21,600千円

資金面	本年度は実施主体自己資本にて実施予定（券売収入での採算を目指す）ですが、次年度以降の事業化に向けては、地方公共交通協議会や共創パートナーとの意見交換会にて、一部補助金導入の可能性も相談して進めます。
人材面（運転手の確保）	実施主体にて人材確保を目指すとともに、実施主体グループ会社や地域共創パートナーの協力・人材交流を通じ人材確保を目指す。